

日米国際交流・観光シンポジウム 2023

宿利会長挨拶（日本語訳）

皆さま、こんにちは。運輸総合研究所(JTTRI)／ワシントン国際問題研究所(JITTI,USA)会長の宿利正史です。

先ず最初に、本日のシンポジウムの開催のために多大なご協力を賜りました富田浩司駐米日本国特命全権大使に、心より御礼申し上げます。

また、ご講演を賜ります

元駐日米国大使のトーマス・シーファー閣下、

元政策研究大学院大学学長、現熊本県立大学理事長の白石隆教授、

ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係研究大学院、ライシャワー東アジア研究所所長のケント・カルダー教授、

日本政府観光局(JNTO)理事長の清野智様に厚く御礼申し上げます。

次に、パネルディスカッションのご登壇者ですが、

米国商務省次官補代理のマーク・キーム様は、予期せぬ事情の

ため参加することができなくなりました。本日はその代理として、

米国商務省国家旅行・観光室のカート・コトル様

にご出席いただいております。続いて、

在米日本国大使館公使の相航一様、

米国法人日本国際交流センター エグゼクティブ・ディレクターの
加藤和世様です。

パネルディスカッションにご登壇いただく皆様に厚く御礼申し上げます。

そして、お忙しい中、本シンポジウムに足をお運びいただきました
皆さま、オンラインでご視聴いただいております皆さまに、心より感謝
申し上げます。

日本の春を彩る桜の花は、米国では日米の友好関係の象徴で
す。まさに桜の花が咲き誇るこの時期に、ここワシントン DC におい
て、毎年恒例のワシントン桜祭りの公式行事として、日米間の交流・
観光をテーマとしたシンポジウムを再び開催できることを心から嬉し
く思います。

また、本日のシンポジウムに対しまして特別のご支援をいただき
ました全米桜祭り協会会長のダイアナ・メイヒュー様に心より感謝申
申し上げます。

当研究所は、4年前の2019年3月に、「国際交流・観光セミナー2019」をワシントンDCにおいて開催しました。

その時には、昨年5月に惜しくも亡くなられたノーマン・ミネタ元米国運輸長官閣下と本日ご参加いただいている清野智日本政府観光局理事長のお二人に基調講演を行っていただきました。

2019年当時は、東京オリンピック・パラリンピックを翌年に控え、日米両国間の人と人との交流は順調に拡大していくものと多くの人々が信じていました。

しかしながら、この約束されていたはずの両国間の人と人との交流は、翌2020年初めからのCOVID-19のパンデミックにより、過去に例を見ない甚大な影響を受けることとなり、今なお、日米はその影響から脱しきれずにいます。

さらに、この間、昨年2月にロシアがウクライナに軍事侵攻し、また、中国による覇権主義的な動きが一層強まりました。

このように国際秩序が激しく揺らぐ中で、揺るぎない軸として日米関係を進化・発展させていくことが、日米両国にとってのみならず、世界の安定にとっても極めて重要になっています。

当研究所は、昨年 12 月に、元米国国務副長官のリチャード・アーミテージ閣下と初代日本国国家安全保障局長の谷内正太郎氏という日米の外交・安全保障分野の第一人者をお招きし、オンラインにて、第 1 回 JTTRI グローバル・セミナー「急激に変化するコロナ後の世界秩序と今後の新たな日米関係」を開催しました。このセミナーでは、日米関係をより高い次元に進化・発展させていくことの重要性とそのためにもどのような取組みが必要かをテーマに議論していただきました。

今後、日米関係の進化・発展を目指す上で、学生や研究者の留学や、企業連携その他ビジネスを通じた交流など、両国間の人と人との交流を強化することが極めて重要になると考えています。もちろん、人の往来や観光を通じた交流が果たす役割は、今後ますます重要になるものと考えます。

こうした日米間の多層的かつ広範な人と人との交流は、両国国民の間の人的ネットワークを充実させるのみならず、お互いの社会や文化に関する相互理解を増進し、お互いの信頼関係を強化することにもつながります。このことが、日米を「遠くて関係の薄い国」から「近くて関係の深い国」に変えていく近道であり、ひいては、両国間の安全保障体制の強化にもつながっていくことになることでしょう。

本日は、日米関係の発展・強化に向けて、日米間の重層的かつ広範な人と人との交流をより高い次元に再構築・強化するために、今後どのように対処していくべきかについて、皆様とご一緒に考えていきたいと思っております。

最後に、日米間の交流や観光が一層拡大し、両国の絆が強まることを祈念しまして、私の挨拶といたします。

本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございます。